



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月13日

上場会社名 株式会社ジェイホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2721 URL http://jholdings.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 眞野 定也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 中山 宏一 TEL 03(6430)3461
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	1,193	10.2	△60	-	△56	-	122	-
2019年12月期第3四半期	1,083	0.9	△237	-	△247	-	△252	-

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 122百万円 (-%) 2019年12月期第3四半期 △252百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	44.96	-
2019年12月期第3四半期	△92.28	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	117	△66	△56.7
2019年12月期	1,288	△187	△14.7

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 △66百万円 2019年12月期 △189百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年12月期	-	0.00	-	-	-
2020年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,220	△18.7	△132	-	△128	-	31	-	10.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 業績に与える未確定な要素が多く、合理的な算定が困難であることから未定としておりました通期業績予想を開示いたします。詳細は添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外1社（社名）株式会社シナジー・コンサルティング

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	2,733,500株	2019年12月期	2,733,500株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	20株	2019年12月期	20株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	2,733,480株	2019年12月期3Q	2,733,480株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的蔓延が懸念される中、感染拡大が国内外の社会経済活動に及ぼす影響が予見できず、極めて不透明な環境下にあります。政府においても新型コロナウイルス対策の特別措置法を制定し、同法による緊急事態宣言の発出を可能にするなどの対策を進めており、予断を有さない状況が続いております。

当社グループが関連する不動産業界、及びインターネット業界におきましても、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会活動の停滞が、各業界の事業環境に与える影響について、想定が困難な状況下にあります。

こうした環境下、当社グループは、

- ・ フットサル施設の運営及び当該施設を活用した事業を行う「スポーツ事業」
- ・ 不動産を手段とした資産形成、資産運用のための不動産販売業務、並びに不動産の有効活用、購入、売却のコンサルティング業務を行う「不動産事業」
- ・ システム・ソリューション開発業務、マーケティング・プロモーション業務、Webアプリ開発業務を行う「Web事業」

の3つの事業を展開してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,193,149千円(前年同期比10.2%増)、営業損失60,057千円(前年同期は237,011千円の営業損失)、経常損失56,667千円(前年同期は247,237千円の経常損失)となりました。なお、第2四半期連結会計期間において、不動産事業を展開しております当社100%子会社である株式会社シナジー・コンサルティングの全株式を譲渡し、同社及び同社の子会社である合同会社SCファンド1号を連結の範囲から除外しております。子会社株式の譲渡に伴い、特別利益として子会社株式売却益319,987千円及び特別損失として貸倒引当金繰入額138,346千円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は122,887千円(前年同期は252,234千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(スポーツ事業)

スポーツ事業に関しましては、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言を受け、フットサル事業を行う2店舗にて、2020年4月より5月までの期間において臨時休業等の措置をとりました。その結果、当第3四半期累計期間において、つかしん店については減収減益となりましたが、東山田店については、施設売上が好調なこともあり、臨時休業等の減収減益額を当第3四半期会計期間の増収増益額が上回り、当第3四半期累計期間において増収増益となりました。なお、つかしん店の減収減益額が東山田店の増収増益額を上回ったため、当該事業全体としては、減収減益となりました。

その結果、売上高は67,301千円(前年同期比8.5%減)、営業利益は15,868千円(前年同期比20.5%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業に関しましては、不動産売買に関する大型案件が決済されたことにより、売上高は1,125,571千円(前年同期比11.6%増)、営業利益は76,320千円(前年同期は105,551千円の営業損失)となりました。

(Web事業)

Web関連事業に関しましては、前期からの課題であった販管費の削減が功を奏し、売上高は275千円(前年同期比63.2%減)であったものの、営業損失については前年同期の52,168千円から減少し、14,330千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は117,363千円となり、前連結会計年度末に比べ1,170,695千円減少いたしました。その主な要因は、販売用不動産が1,057,974千円減少、未収入金が137,606千円増加、前渡金が60,922千円減少、未収消費税等が37,783千円減少、貸倒引当金が127,579千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は183,928千円となり、前連結会計年度末に比べ1,292,032千円減少いたしました。その主な要因は、短期借入金が41,000千円増加、未払金が33,455千円増加、預り金が260,039千円減少、前受金が1,100,459千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は△66,564千円となり、前連結会計年度末に比べ121,337千円増加し、自己資本比率は△56.7%となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が122,887千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

スポーツ事業に関しましては、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業等の措置により、2020年12月期第2四半期会計期間は当該事業を行う2店舗がともに減収減益となったものの、当第3四半期会計期間については、2店舗ともに売上高及び営業利益が前年同期を上回っており、新型コロナウイルス感染症拡大第3波への懸念を考慮した結果、2020年12月期第4四半期については前年同期と同水準の売上及び営業利益を見込んでおります。

不動産事業に関しましては、2020年5月19日付にて当社連結子会社である株式会社シナジー・コンサルティングの全株式を譲渡し、当社の連結対象から除外するとともに、投資用不動産の販売事業、仲介事業を廃止しております。他方、当社連結子会社である株式会社ジェイリードパートナーズにおいて、ソーシャルレンディング事業をはじめとするフィンテック事業、不動産テック事業を展開し、収益化を図る方針ですが、2020年12月期第4四半期については売上の計上を見込んでおりません。

Web関連事業に関しましては、従来行ってきたWeb関連事業に加えて、SDGs（エスディーゼーズ）関連事業への展開を模索し新たな事業及び収益源の確保を目指しており、2020年9月30日付「新たな事業の開始に関するお知らせ」のとおり、販売用太陽光発電施設の仕入・販売事業を開始しておりますが、2020年12月期第4四半期については売上の計上を見込んでおりません。

以上により、当連結グループの2020年12月期通期業績を以下のとおり予想いたしました。

2020年12月期 通期連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高 (百万円)	営業損失 (△) (百万円)	経常損失 (△) (百万円)	親会社株主に帰属する当期純利益または親会社株主に帰属する当期純損失 (△) (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	1,220	△132	△128	31	10.30
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(参考)前期実績 (2019年12月 期)	1,501	△283	△287	△295	△108.05

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,765	17,304
売掛金	5,156	5,142
販売用不動産	1,057,974	—
未収入金	740	138,346
前渡金	60,922	—
前払費用	7,529	2,602
未収還付法人税等	19,087	18,113
未収消費税等	52,837	15,054
その他	407	773
貸倒引当金	△10,797	△138,377
流動資産合計	1,224,624	58,960
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	30,087	26,070
その他(純額)	488	381
有形固定資産合計	30,576	26,451
投資その他の資産		
敷金及び保証金	32,847	31,951
長期預け金	18,740	—
その他	10	—
貸倒引当金	△18,740	—
投資その他の資産合計	32,858	31,951
固定資産合計	63,434	58,403
資産合計	1,288,058	117,363

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	44,000	85,000
未払金	28,517	61,972
未払法人税等	2,115	5,224
未払消費税等	2,312	6,006
未払費用	26,677	17,694
預り金	265,704	5,664
前受金	1,101,193	733
瑕疵保証引当金	1,331	—
その他	3,730	1,482
流動負債合計	1,475,582	183,778
固定負債		
長期預り保証金	150	150
長期リース債務	227	—
固定負債合計	377	150
負債合計	1,475,960	183,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	329,352	329,352
利益剰余金	△618,780	△495,892
自己株式	△24	△24
株主資本合計	△189,451	△66,564
新株予約権	1,550	—
純資産合計	△187,901	△66,564
負債純資産合計	1,288,058	117,363

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1,083,197	1,193,149
売上原価	994,498	1,076,435
売上総利益	88,699	116,713
販売費及び一般管理費	325,710	176,771
営業損失(△)	△237,011	△60,057
営業外収益		
受取利息	7,261	0
受取手数料	10	—
受取保険金	117	—
助成金収入	—	12,542
還付加算金	—	45
その他	17	230
営業外収益合計	7,407	12,818
営業外費用		
支払利息	13,671	2,566
支払手数料	3,942	71
株式交付費	—	6,789
その他	20	1
営業外費用合計	17,634	9,428
経常損失(△)	△247,237	△56,667
特別利益		
子会社株式売却益	—	319,987
新株予約権戻入益	—	1,550
特別利益合計	—	321,537
特別損失		
減損損失	2,700	—
貸倒引当金繰入額	—	138,346
特別損失合計	2,700	138,346
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△249,937	126,524
法人税、住民税及び事業税	2,296	3,637
法人税等合計	2,296	3,637
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△252,234	122,887
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△252,234	122,887

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△252,234	122,887
四半期包括利益	△252,234	122,887
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△252,234	122,887
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、債務超過となっていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しておりました。当第3四半期連結累計期間においては、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上するものの、営業損失及び経常損失を計上しており、未だ債務超過が解消されていないこと、また新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等を踏まえると、今後の当社の売上及び利益の見通しについて不確実性が存在することから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が引き続き存在しているものと認識しております。

当社グループは、こうした状況を解消するため、以下の施策を着実に実行してまいります。

①収益基盤の強化

<スポーツ事業>

スポーツ事業に関しましては、今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言を受け、フットサル事業を行う2店舗にて、2020年4月より5月までの期間において臨時休業等の措置をとりました。その結果、当第3四半期累計期間において、つかしん店については減収減益となりましたが、東山田店については、施設売上が好調なこともあり、臨時休業等の減収減益額を当第3四半期会計期間の増収増益額が上回り、当第3四半期累計期間において増収増益となりました。

今後の施策として、東山田店及びつかしん店ともに、新型コロナウイルス感染防止の見地から万全の対策を施した上で、顧客満足度の高いイベントを企画することにより集客増加を図ってまいります。

<不動産事業>

不動産事業に関しましては、当社連結子会社である株式会社シナジー・コンサルティングの全株式を譲渡し、投資用不動産の販売事業、仲介事業を廃止する一方、当社連結子会社である株式会社ジェイリードパートナーズにおいて、ソーシャルレンディング事業をはじめとする新たなフィンテック事業、不動産テック事業を展開し、収益化を図ってまいります。

<Web事業>

Web関連事業に関しましては、従来行ってきたWeb関連事業に加えて、SDGs（エスディージーズ）関連事業への展開を模索し新たな事業及び収益源の確保を目指します。

②コスト削減

各部門の仕入原価、販売費及び一般管理費の見直しを引き続き継続するとともに、本社費の削減に取り組むことで、全社の利益率の向上に努めてまいります。

③財務基盤の強化と安定

前述のとおり、当第3四半期連結会計期間において当社は、122,887千円の親会社株主に帰属する四半期純利益を計上しているものの、当該期間期末において、依然66,564千円の債務超過の状態であります。

当社は、財務基盤の安定、強化を図り、当該債務超過状態を解消することを喫緊の課題と認識しており、自己資本の充実を図るために増資も含めた資金調達的手段を検討してまいります。なお、2020年10月16日付で第三者割当による新株及び新株予約権の発行により475,352千円の資金調達を行い資本の充実を図っており、債務超過の解消が見込まれます。

また、上記の施策を着実に実行することにより、当社グループの経営基盤の強化を図ってまいります。当該施策において最も重要である各事業における収益基盤の強化は外部要因に大きく依存することから、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

2019年3月28日開催の定時株主総会の決議に基づき、2019年5月31日付で減資の効力が発生し、資本金が434,746千円及び資本準備金が169,289千円それぞれ減少し、繰越利益剰余金が604,036千円増加しております。その結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が100,000千円、資本剰余金が329,352千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	スポーツ 事業	不動産 事業	Web 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	73,520	1,008,928	748	1,083,197	—	1,083,197
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	73,520	1,008,928	748	1,083,197	—	1,083,197
セグメント利益又は損失(△)	19,971	△105,551	△52,168	△137,748	△99,262	△237,011

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△99,262千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結累計期間における「不動産事業」において、前連結会計年度の末日に比べ、セグメント資産が531,276千円増加しております。その主な要因は、事業が拡大したこと等に伴い、前渡金が107,402千円増加、短期貸付金が350,000千円増加及び長期預け金が65,740千円増加したことによるものであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	スポーツ 事業	不動産 事業	We b 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	67,301	1,125,571	275	1,193,149	—	1,193,149
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	67,301	1,125,571	275	1,193,149	—	1,193,149
セグメント利益又は損失(△)	15,868	76,320	△14,330	77,858	△137,915	△60,057

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△137,915千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結累計期間における「不動産事業」において、前連結会計年度の末日に比べ、セグメント資産が1,157,263千円減少しております。その主な要因は、販売用不動産の売却等に伴い、販売用不動産が1,057,974千円減少及び前渡金が60,922千円減少したこと、及び第2四半期連結会計期間において、不動産事業を展開しております株式会社シナジー・コンサルティングの全株式を譲渡し、同社及び同社の子会社である合同会社SCファンド1号を連結の範囲から除外したことによるものであります。